

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071900791		
法人名	有限会社 西日本在宅介護センター		
事業所名	グループホーム見立		
所在地	〒826-0041 福岡県田川市大字弓削田3251番地 TEL0947-42-8817		
自己評価作成日	令和5年11月20日	評価結果確定日	令和5年12月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	令和5年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

夜勤二人体制なので利用者が不安無く過ごされ家族の方が安心して頂けるよう心がけています。医師と訪問看護師で医療連携も取れ職員共々安心して対応。利用者に寄り添える介護を徹底しています。職員の年齢層が高いので入居者と家族的な環境に有ります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

認知症高齢者グループホームの創設理念と同義の開所以来の理念を実践するために、管理者は日々入居者其々の心身の特性を踏まえた支援を実践し、指導の機会としている。1日3回の申し送り職員で職員への気づきや意見、アセスメント結果を介護計画の作成や見直しに繋げている。かかりつけ医や訪問看護と連携し、1年間で3名の方を見送り、8月に逝去された98歳の方は、2~3時間かけて自由に食事をしてもらう支援で老衰であった。家族にメールやラインで入居者の暮らしぶりを報告し、「値上げしなくても大丈夫か」との意見を頂き、光熱費を値上げしている。元公民館長が運営推進委員に就任し、地域消防団に協力要請ができる関係が構築され、今月の運営推進会議は家族や地域代表、知見者などの参加で開催し、直に意見を伺う予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホーム見立**

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境のもと安心して日常生活を送れるよう心身の特性を踏まえ支援を心がけるよう理念を共有して実践する。	認知症高齢者グループホームの創設理念と同義の理念を、玄関の目に付きやすい場所に掲示している。管理者は、日々入居者其々の心身の特性を踏まえた支援を実践し、指導の機会としている。	日々のケアを振り返り、こころ新たに入居者と共に過ごし支え合う関係を構築するために、理念を共有する機会や場づくりを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症防止の為交流が困難	諸般の事情で自治会加入はないが、元公民館長が運営推進委員に就任し、火災時は地域消防団に協力要請ができる関係を構築している。9月に参加した近隣の系列施設の夏祭りは、地域と久々の交流の場となった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルス感染症防止の為交流が困難		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は書面開催の為話し合いは困難書面では意見が思うようにでない。電話で対応。	今月の運営推進会議は家族や地域代表、知見者、地域包括支援センターなどの参加で開催し、ホームの状況などを報告し、直に意見を伺う予定である。会議録は玄関ではなく入居者の目に触れにくい場所での公表を検討している。	参加者から率直な意見を伺うために具体的な議題の提案とともに、全家族に運営推進会議開催の案内や内容報告を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新入居者の場合、市の担当者と連携をとっている。	地域包括支援センターからの入居が多く、担当者と情報交換や連携に取り組んでいる。特に前運営者(現法人顧問)に対する信頼が厚いと管理者は話している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に入り口を探している入居者がいます。玄関の施錠をしないことは困難。家族も施錠を望む。	全職員に具体的な身体拘束の内容や止むを得ない拘束について周知している。以前「家に帰りたい」と無断外出した方は無事帰園されたが、特定の入居者への暴言や暴力もあるため、家族と協議し専門科を受診している。現在は外出には至らず暴言回数も減っているが、常に言動を見守っている。	申し送り時の入居者の外出傾向や暴言、暴力などの話し合いを適正化のための会議や研修の場と捉え、記録の整備を期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日の申し送り時の日課になっている。暴力的になる入居者から傷を受けているが職員も不安ながら笑顔で対応。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それを活用できるよう支援していく。	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関するパンフレットを整備し、入居時に説明している。前運営者（現法人顧問）が止むを得ない事情で、地域包括支援センターの了解を得て、数名の利用者代理人となっているが、対応を随時地域包括支援センターに相談する予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者や家族の不安や疑問点を尋ね、それに対して説明を行い十分に理解・納得していただく。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の意見要望は管理者又、職員が対応しホームの運営に反映させるよう努力している。	感染予防のため、家族にメールやラインで入居者の暮らしぶりを報告している。添付した写真を見た家族の「痩せたのでは」には、健康状態を報告している。家族から昨今の物価上昇に配慮し、「値上げしなくても大丈夫か」との意見を頂き、光熱費を値上げしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り時職員の意見や提案など聞き実行し、結果が出ない時は再度話し合い、意見交換する。	パート職員が多いため、毎日3回の申し送り時にケア内容や業務内容を話し合っている。管理者は自らの職務内容を検討し、2人体制の夜勤やBCP策定について法人の顧問や事務と相談する予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞き希望している条件に向けて整備出来るように努める。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	能力有れば年齢制限なし。必要な研修は優先している。	ハローワークなどを通じて48歳～78歳までの男女の職員が就労しているが、70代やパート職員が多く、夜勤は2人体制である。介護福祉士や看護師などの有資格者も多く、法人内の異動もあり、シフトの希望を叶え、2階に休憩室を設けている。管理者は、思い遣りをもって介護ができる人材を雇用したいと話している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職務時、人権尊重を心がけ職員の啓発活動に取り組んでいる。	管理者は職員の不適切な言動を見聞きした場合は、直接その場で注意している。介護のプロとして、入居者だけでなく職員間も穏やかな言葉遣いで楽しく仕事をしてほしいと管理者は話している。	コロナ禍前の年間研修計画を参考に、令和3年度の改定事項である虐待やハラスメント対策を組み入れた年間研修計画を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、働きながらトレーニングを実施している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新型コロナウイルス感染症防止の為交流が困難でした。今後の課題として同業者の交流の機会を持ちサービスの質を向上させていきたいと思ひます。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーション作りに努力し又、入居者の人格を把握し何を望んでいるか掴み取る。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で家族が困っている事や不安な事に対し耳を傾けながら関係づくりに努力している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者に対するサービスがどの程度まで必要性が有るか見極め、家族と話し合うように努める。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と共に毎日の暮らしの中で家族同様の関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人同様家族的に支援し、家族の絆を大切にしながら共に本人を支える関係を築く努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染症予防の為これまで大切にしてきた馴染みの人や場所の関係が困難でした。今後少しでも支援できるよう努力して活きたい。	車椅子出入り口のドアのガラス戸越しで電話での面会をお願いしている。ゆっくりと面会してほしいと入居者用の椅子を用意し、時間や人数の制限はなく、家族や友人からの電話を取り次いでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士関係を把握し、孤立しないよう利用者同士が関わり合い、支え合える支援に努めるよう努力する。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後関係を断ち切らない取組みが出来る事が有れば、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何事も入居者の要望を聞き、実行できる事はさせて頂く。無理難題時は家族に相談したり、時間をかけて話し合うよう努めている。	生活歴や家族構成などの基本情報やアセスメント結果を整備している。日々の状況や気づきを1日3回の申し送りで共有し、「家に帰りたい」は「お母さんに会いたい」との気持ちだと察している。	詳細なアセスメント結果を日付や印字の色を変えて書き加え、さらなる思いや意向の把握を期待します
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境を把握してサービス提供できるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前・午後・夕方の申し送り時一人ひとりの現状把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員や本人、家族等意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員の気づきや意見、アセスメント結果に沿って介護計画の作成や見直しをしている。誤嚥や関節の痛みに配慮しながら、経口摂取やオムツ交換、保清を支援している終末期の入居者もある。	具体的な短期目標や期間、優先すべきケア内容の記載で終末期の経過に沿った介護計画の作成や見直しを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りを利用してケアの実践・結果気づきや工夫を個別に記録し職員同士情報を共有しながら実践や介護計画に活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に合わせて柔軟な支援に取り組む努力をしている。特に家族の要望などは支援サービス提供に取り組む。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は地域の入居者は友達と食事会にいられていたが、現在新型コロナウイルス感染症拡大防止の為に実施出来ていない。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医に往診依頼している。納得が得られたかかりつけ医と訪問看護、事業所と医療連携を取りながら支援している。	協力医療機関や入居前からの医療機関の受診を受けられるように支援している。日々の健康を管理している訪問看護に随時相談できる良好な関係を構築し、適切な医療受診に繋げている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に訪問看護師に相談し個々の利用者が適切な受診看護を受けるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院との情報提供し、安心して治療できるように、早期退院出来ようカンファレンスなど病院関係者との関係づくりを行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期の意向確認書と看取り介護の指針を十分に説明し、また重度化した時は再度十分に確認をとって家族が悔いがないようにし、地域の医療機関と関係者で連携をとる支援の取り組みをしている。	1年間で3名の方を見送っている。8月に逝去された98歳の方は7年ホームで過ごされ、2～3時間かけてご自分のペースで自由に食事をしてもらう支援で老衰であった。入居時に看取りを希望された方もあり、医療と連携しながら看取りを支援する予定であるが、24時間オンコール可能な訪問看護が頼りになると管理者は話している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	室内研修を行い訪問看護師の指導にて応急手当初期対応など訓練を実施。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議地域の委員にも協力を得て又、地域の消防団とも交流する機会をつくる。	前回は職員のみで避難訓練を行い、今月は消防署立ち合いの訓練を予定している。火災時は地元消防団に連絡し、裏のフェンスを壊し避難経路を確保することやサイレンを鳴らしてもらうことを運営推進委員にお願いしている。米や缶詰などの食料品、感染防止グッズを備蓄している。	令和6年3月までに策定が義務づけられているBCP策定や備蓄台帳の整備を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーポリシー提示し、職員に周知又、情報漏洩防止に取り組み一人ひとりの人格を尊重しながら対応している。	入居者は〇〇さんと氏名での呼称を基本としているが、家族のちゃんづけが親しみがわくこともある。職員の声かけや対応が入居者の暴力を誘発する要因になることを理解し、排泄介助時のノックや声かけ、ドアを閉めることを励行している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の日課として希望される物は把握し、満足していただく。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時その時を反省しながら利用者に寄り添う努力をしています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛が薄いと帽子かぶられています又、一日に数回着替えをされファッションショーの様に楽しまれています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者の好みを聞きその都度献立に加える、その他は検討中。	入居者の好みの献立が食卓に上り、咀嚼や嚥下に配慮して刻みやミキサー食を用意し、食事を楽しめるように支援している。調査日の昼食は、プレートの惣菜を入居者の希望に応じて調理鉢でカットし、食卓についた全入居者が自ら箸を使い完食していた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ミキサー食、刻み食、お粥など食べる量も違い又、食事の時お茶を摂らない方はコーヒや好みの飲み物に替え水分摂取に気配る。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日4回の口腔ケア実施。歯ブラシ・スポンジなど利用者にあったものを使う。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	暴力的な入居者もベッド上のオムツ交換からトイレ誘導出来るように努力している。	ポータブルトイレを使用せず声かけや誘導で、トイレでの排泄を基本としている。トレーニングパンツや尿取りパットを便槽に詰まらせたり、オムツ交換時に暴力をふるうなどの行為に対処している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物などで工夫する取り組みをしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の体調に合わせて入浴実施しているが職員不足で個々に合った入浴の支援が出来ていない、出来るだけ希望を入れるように努力したい。	週2回を目途に入浴を支援しているが、浴槽が深くシャワー浴のみもある。同性介助の希望はなく、皮膚が弱い入居者には家族がシャンプーなどを持ち込んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事やおやつ時間に起床出来ない時は声掛けしながら時間をずらし、その内入居者から声がかかる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食事量やその日の症状によって主治医に確認をとり服薬管理をしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や職種など情報収集を行い喜びやる気を感じる事が出来るよう心身状態に合わせ努力していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症蔓延防止の為暫く出来ていないが、9月には弊社の関連事業所で夏祭りに参加できた。	近隣の系列施設の夏祭りの参加は外出の好機となったが、コロナやインフルエンザの感染状況から外出を控えている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の理解ができている入居者には支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持して自ら電話をしている又、友人からの手紙に返事を出している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の生花や造花などは最近入居者が自室に持って行かれる為工夫中又、その他は気を配る努力をしていきたい。	民家改造型のため、設置された看板でホームを確認する佇まいである。框を上がると食卓や椅子が置かれた居間があり、傍の厨房から美味しそうな匂いが漂い、食後も寛いでいる入居者もあり、家庭そのままの風景であった。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話が弾み水分摂取やおやつなど声掛けしながら同じ場所で楽しんでいます。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を配慮した上で使い慣れたものを活かしている。	畳敷きの居室は家庭的な引き戸やふすまで仕切られ、ベッドが置かれている。紙に執着し壁紙に文字を書いたり、居室の戸に掲示した表札を取る入居者もあり、其々状況や安全に配慮した居室となっている。どの居室も清掃が行き届き整理されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間他の入居者が入室し、暴言をはき不安を訴える為、安心して就寝出来るよう対応又、徘徊される入居者に寄り添う。		